

H30 和歌山県有田川町議会 会派視察行程表

議員2人

木
【平成30年7月26日(木)】

8:13 藤並駅	====	====	9:50 新大阪駅	10:05	====	====	11:42 福知山駅
		(JR特急くろしお10号)				(JR特急こうのとり5号)	
11:53 福知山駅	====	====	12:24 宮津駅	(昼食)	====	14:00~16:00	
		(JR特急はしだて3号)			(徒歩)	視察:道の駅「海の京都 宮津」	
==== (タクシー)	16:21 天橋立駅	====	====	16:47 峰山駅	====	宿泊先	
		(京都丹後鉄道宮豊線)			(タクシー)	プラザホテル吉翠苑	
						<u>TEL:0772-62-5111</u>	

金
【平成30年7月27日(金)】

9:40 宿泊先	====	====	10:00~11:30	視察:京丹后市役所	====	====	峰山駅
		(徒歩)				(タクシー)	
12:46 峰山駅	====	====	13:22 宮津駅	13:57	====	====	14:33 福知山駅
		(京都丹後鉄道宮豊線)				(JR特急はしだて4号)	
14:42 福知山駅	====	====	16:28 新大阪駅	17:15	====	====	18:47 藤並駅
		(JR特急こうのとり18号)				(JR特急くろしお21号)	

政務調査報告

2018年8月6日

報告者 小林英世

近畿市町村広報セミナーに参加して

日程

7月19日

7時10分 吉備庁舎
7時40分 くろしお8号 (藤並発)
9時13分 西九条着
9時29分 大阪駅着
10時～16時 セミナー
会場：毎日インテシオ

宿泊 ホテル関西 tel +816-6321-7971

7月20日

10時～16時 セミナー
16時23分 くろしお21号
18時 吉備庁舎



上記の日程で広報セミナー参加した。会場は120人の定員で満室。31回の実施で最高の人数。

行政と議会両方の関係者が参加していた。県内では紀美野町議会、由良町議会、紀の川市議会、岩出市議会、橋本議会、本町議会及び田辺市、九度山町の計16人の参加であった。議会関係は120人中70人程度であった。2日目の午後には実践報告とフリートークがあり、議会と事務局の関係など際どい問題も取り上げていた。2日間で6本の講義と午後のフリートークという密度の濃いセミナーであった。かなり疲れるが内容も充実しており、来年は委員会全員での出席を検討するべきと考える。

セミナー内容

7月19日(木)

10:00～10:10 開講あいさつ 砂間 裕之 毎日新聞大阪本社編集局長

10:10～11:10 講義「特集記事の取材と書き方のポイント」 講師:梶川 伸・元毎日新聞論説委員
結論

・広報紙づくりで大事なことは、それを話し合っで決め、共有すること。

- ・住民目線でつくる。情報強者は上から目線になるので注意。
- ・署名やイニシャルをいれる。
- ・家族を活用。

いくつか実践しており、方向が間違っていないことを確認できた。

11:20～12:20

講義「読まれる紙面作りを目指して」

講師:三橋 裕二・毎日新聞大阪本社編集制作センター編集部長

- ・紙面作りの基本中の基本
- ・大事な原稿とは
- ・見出しの作り方、テクニック

新聞の紙面作りをメインの説明があったので、広報の中でどのように生かせるかこれからの課題。原稿選びと見出しの付け方は大変参考になった。

13:20～14:20

講義「レイアウトには理由(わけ)がある —伝えたい事が伝わるために—」

講師:岡本晃博・毎日新聞大阪本社企画部グラフィックデザイナー

- ・レイアウトの意味
 - *誰のための何のためのレイアウトか
 - *迷わせない、混乱させないためにレイアウトする
- ・紙面のレイアウト
 - *印刷物は、大勢の人に情報を知ってもらうためのもの
- ・見やすさと見にくさの境界
 - *機能するレイアウトを探す
 - *フォーマットの重要性
 - *視点が斜めに動くようにしてリズムを出す
 - *伝えたい内容を整理すればレイアウトが見える
- ・身の回りから学ぶ
 - *他者に対する気遣いを形にする

日頃、委員長が一手に引き受けてくれているレイアウトの大切さを、少し理解できた。

基礎を知らないと出来ない分野であるが、素人でも意識を高く持ちながら作業を続ければ、なんとかなると信じて頑張りたい。

14:30～16:00

講義「“伝わる”写真の撮り方、選び方」

講師:西村 剛・毎日新聞大阪本社写真部副部長

- ・後援会の写真では演題などすべてを入れる必要なし。
- ・広角や望遠のレンズを活用するべし。

実例を元に、写真の取り方や、レンズの選び方を丁寧に説明していただいた。

カメラを代えたくなくなった。

7月20日(金)

10:00～11:10 講義「伝わる文章を書くために」

講師:佐竹 秀雄・日本漢字能力検定協会現代語研究室長

・文章のしくみ

主題…何が目的で何を伝えたいか

構成…どんな順序で並べるか

材料…主題を作り上げていることがら。

、主題を明確化し、ブロック化した材料を整理してから書き始める。

・「箇条書きの精神」で

・文脈の原理は「予約のせいしん」で

日本の国語教育は文章の書き方を教えないと講師が言われたが、振り返ると仰せの通りである。伝えるために技法があり、それを繰り返すことで伝わる文章が書けるような気になった。実践あるのみ。

11:20～12:20 講義「ミスを防ぎ分かりやすく～新聞校閲の視点から～」

講師:中高 正博・毎日新聞大阪本社編集制作センター(校閲)副部長

・校正と校閲のちがいがい…多くの辞書を使用し、比較しよう。

・校閲

一読…字面チェック(一文字一文字を見る)

再読…比較しながら読む(表記の統一、文脈を考えて)

さらに…気になる箇所を調べる。

練習問題をしながら楽しく受けることが出来る講座であった。私は一読の部分と再読の部分が分かれていない。次は分けてやってみたい。

13:20～15:50 「事例報告とフリーターキング」 司会:梶川 伸

○事例報告 「甲賀市議会だより」 甲賀市議会 橋本副議長

- ・発行回数年4回
- ・議員作成 (広報特別委員会8人)
- ・平成30年度から全ページをカラー印刷に
- ・表紙のリニューアル→より親しみやすいように
- ・QRコード掲載
- ・「議会ことば」でなく、市民にわかりやすいことばで

表紙の写真は議員が撮影しているそうだが、いつもカメラを携行して多くの写真から選ぶ熱意が伝わってきた。全ページカラーにしても、費用はほとんど変わらないと答えていた。当町でも検討に値する。

特集ページも話題にのぼった。時間をかけた特集が出来るようであれば取り組みたい。

○フリートーク

- ・一般質問どこまで直すのか？

当町でもよく問題になるが、作成要項をつくっているとことはなく、委員会と各議員と関係でおこなっているようだ。

- ・白山市議会の一般質問は 250 文字程度。

- ・特集例の発表

「おしえて議員さん」高校との連携（八尾） アンケートから（豊岡）

商業施設の一角でシール貼りアンケート（淡路）

「その後どうなった」のような追跡もの（紀ノ川など） 議員の手柄が問題に!!

「有害鳥獣」 「市民のインタビュー」（南あわじ市）

- ・見出しの問題
- ・写真のトラブル・・・ネットでの拡散、DV など多様化。
- ・事務局と議員との関係

15:50～16:00 閉会式

二日目午後は甲賀市議会の発表があり、事前に送っている広報紙の寸評もまじえてフリートークが行われた。参加者には議員と事務局の職員が同じ会場でトークし、微妙な場面もあったが、全体に有意義であった。密度が濃く、疲れるセミナーであるが為になることは間違いない。

今後、学んだものを委員会の中でしっかり伝えていく所存です。



岩出（和歌山県）



白山（石川県）

政務調査報告

2018年8月7日

小林英世

同行者

海南市議会 中西徹 川口政夫 片山光夫 東方貴子 黒原章至 上村五美
紀美野町議会 向井中洋二 七良浴光 町田富枝子
有田川町 省吾

7月26日

研修場所 宮津市役所、宮津市町並み

道の駅を中心としたまちづくり

宮津市は日本三景の天橋立があり年間観光客が300万人を超える。平成26年に「海の京都観光圏」に認定され、歴史を生かした町中観光やエコツーリズムなど滞在型観光地への転換を進めている。

昨年度、市街地の観光客数は45万人を超え、今回視察した道の駅を中心としたまちづくりの成果がめざましい。

主な取り組み

*観光案内所

- 営業時間 9:00～18:00（無休）
- 運営方法 天橋立観光協会に業務委託
- 整備費用 164,918,554円（財源：京都府補助金ほか、5年間リース
リース後は市へ無償譲渡）
- 供用開始 平成21年12月26日
- 主なサービス
 - ・観光インフォメーション、交通情報の提供
 - ・宿泊設備の斡旋 ・食事クーポンの販売
 - ・レンタサイクル ・無料wi-fi
 - ・道の駅グッズ（切符、缶バッジ）の販売

*宮津まごころ市

- 営業時間 9:00～17:00（年末年始休み）
- 運営方法 指定管理制度（ハマカゼプロジェクト（株））*指定管理料は0
- 運営体制 平日2名、土日祝3名



- 販売方法 委託販売（手数料；15%、冷凍冷蔵食品：18%）
注）一部買い取り商品有り
- 納入方法 生産組合と連携（会員数 104 名の宮津まごころ市組合）
- 集客企画 道の駅イベントとして、旬の農産物メインに定期的開催

よくある道の駅で産品も特に多いわけではない。
指定管理で運営しているが、管理料が無料で経営でき、農産物は市内の消費者が購入するため、ほとんどが午前中に売れるらしい。まちづくりの中心となるように計画され着実の顧客を増やしているとのこと。



我が町でも道の駅があるが、それを中心にまちづくりをするというおもしろい感性を参考にしてみたい。

*おさかなキッチン

- 施設目的 浜町エリアの地域振興拠点の具体化に向けたパイロット事業（3年間）
- 事業主体 宮津商工会議所（浜町エリアの賑わいづくりの検討主体）
- 運営方法 業務委託
（会議所から事業パートナーのハマカゼプロジェクト（株）へ企画・マネジメントなどを業務委託）
- 店舗数 飲食店・鮮魚店の2店舗
- 営業時間 【HAMAKAZE Cafe】10時～23時（火曜日は17時まで）
【山一水産】10時～17時（水曜日は定休日）
- 集客企画 道の駅イベントを定期的開催

コンセプトは「海の京都の台所」。宮津産を中心に丹後エリアの旬の食材を提供している。「買う」「食べる」「体験する」が一つに成っており、山一水産で鮮魚を買って自分で好きなようにカスタマイズできるとんぶりを作る体験が出来る。買う食べるだけでなく、自分で作るが重要で、大いに参考になった。

HAMAKAZE Café は昼はセルフ方式のカフェ、夜は洋風居酒屋として、宮津・丹後のシーフードがカジュアルに味わえる。

まごころ市もおさかなキッチンもはまかぜプロジェクト（株）が業務委託されている。社長が若く勢いを感じる人物であるが、地域でどのように評価されているのかが気になるところである。

*** 公共施設の集約化**…既存の商業施設ミップルを活用し、3・4階に福祉・教育総合プラザを開設。市役所の福祉部門と教育部門を移転させ福祉・教育のワンストップ化を図る。

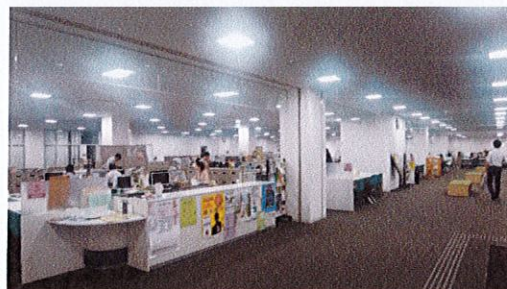
・3階 図書館



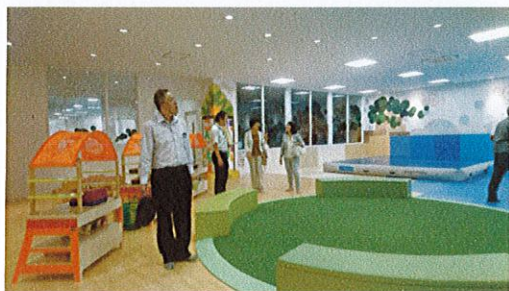
・4階 市役所の福祉部門と教育部門



4階 案内板



福祉と教育部門



子育て支援センター「にっこりあ」



ボーネルンドと協働して開発した、興味深い遊具がたくさん配置されている

商業施設ミップルの3・4階に図書館と福祉・教育総合プラザを開設しているが、市役所の福祉部門と教育部門を移転させ、住民に近づけたところに戦略を感じる。

スーパーの3階に造られた図書館は、買い物客でも気軽に立ち寄ることが出来る。入館して驚いたのは、いろいろなタイプの読書スペースが造られていることである。大きくはないが、隅々まで利用者目線で造られているのがよく分かる。子育て支援センターは遊具などに、民間との協働の成果が見て取れる。

7月27日

研修場所 京丹後市 京丹後市役所峰山庁舎

京丹後市の公共交通の取り組みについて

京丹後市は平成16年に峰山町、大宮町、網野町、久美浜町、丹後町、弥栄町の6町が合併して出来た。面積約500km²、人口約54000人で65歳以上が39.3%の高齢化を抱える。

平成16年合併以後路線バスへの補助金がかさみ、1億円を超える深刻な状況となっていた。

地域交通会議を設置し打開策を検討した結果、平成22年から「上限200円バス」を運行することになる。その後、住民の足の確保をめざし、さまざまな取り組みを行っており、全国的にも注目され、多くの視察を受け入れている。



1. 高齢者等運転免許証自主返納支援事業

平成24年度に18人の返納者が平成29年には139人に増加している。返納者には、京都丹後鉄道、丹後バス、市営バスの半年定期券を進呈。平成28年度から、丹後バスの回数券を選択しに加える。今後タクシーも検討。

運転免許証の自主返納は本町でも大きな問題である。返納後、不便の無いような環境をいかにつくるか難しい問題だが、京丹後市は積極的に取り組み、成果をあげている。

2. 京都丹後鉄道の利用促進

① 「高齢者片道200円レール」…H23に京丹後市で始め、H25年から宮津市、伊根町、与謝野町も実施している。

② 駅舎整備…トイレ、コインロッカー等

65歳以上の鉄道運賃を高齢者上限200円とすることで、京丹後市の利用者はH23年の2,784人からH29年度には19,401人に増加した。老人の外出も増え200円バスと共に大きな成果をあげている。駅舎整備でトイレの洋式化やコインロッカーの整備など利用者の視点を大切にしている。藤並駅の東口のトイレなど恥ずかしい限りである。

3. 「上限200円バス」

○H17.12 京丹後市地域交通会議を設置し、利用者のニーズに即した路線バスの実証運行を行うためにアンケート調査を実施。

○H18.10 実証運行を開始する。

○H22.10 本運行の移行

この取り組みのすごいところは、民間を納得させたところである。アンケートや実証運行という段階を経て実施に至る過程は見事である。200円は高い運賃に不満を持っていた住民に、「いくらなら乗る？」と聞いたアンケート結果を基にしたそうだ。消費税が上がったときも据え置いている。本町も路線バスが安くなれば、もっと人が動く。宮津市など周辺地域に広がった「200円バス」を参考に、補助金の交渉から離れて、抜本的に対応することが大切ではないか。

4. 「EV 乗合タクシー」による貨客混載の実施 (H27.10.1～)

- ・タクシー営業所が廃止された網野町と久美浜町で実施する。
- ・丹後海陸交通(株)がEV車を1台ずつ旧2町で運行し、H29年度は7,079人の利用者があった。
- ・人だけでなく、モノやサービスを運べる乗り物として設計したが、人以外の利用はほとんど無い。
- ・運賃は1人500円(網野町、久美浜町内)、区域外運賃は旧町毎に250円利用者は年々増加している。
- ・タクシーにはリーフを使用し、購入費は補助金。
- ・運行経費の補助金として年間16320万円。
- ・5年間の時限運行。



人だけでなくモノも運びサービスも用意したが、利用がなく想定外の結果となった。EVを使い、500円という低額料金の設定などインパクトの強い事業であるが今後の継続について検討しているとのこと。費用対効果を考えると継続は難しいと思われる。

5. 「ささえあい交通」の運行開始 (H28.5.26～)

- NPO 法人「気張る！ふるさと丹後町」が運行事業者。
- 市からの補助金無し。行政は関与せず。
- 旧丹後町は H20 年にタクシー会社が撤退し、その後路線バスだけになる。住民の足の問題は深刻で対策が模索された。
- H26 年市営デマンドバス (本 NPO 法人が市から委託事業として受託) の運行が開始されるが、路線バスの営業に配慮したため、ごく一部の運行となった。
- 残る問題解決をめざして、H28 道路交通法第 78 条第 2 号に基づく「ささえあい交通」運行開始。
- ささえあい交通の内容
 - * マイカーで住民ドライバーが有償輸送する。
 - * スマートフォンにドライバーと利用者がウーバー社のアプリを入れ、同社の

サービスを利用する。

- * 18人がドライバー登録をしておき、利用者からの連絡を待つ。
- * 利用者はスマホでウーバーのサイトからタクシーを呼ぶ。
(スマホを使えない利用者には代理配車サポーター設けた)
- * 支払いは利用者の口座からウーバー社に振り込まれ、手数料を除いた分がドライバーに振り込まれる。((現金支払いも選択肢として導入した)

画期的な取り組みで住民主体が素晴らしい。NPO代表は補助金を毒まんじゅうと形容しているが、自分たちで何とかする姿勢が、事業の継続に繋がると思う。利用者数も想定より多いとのこと。今後の展開に注目したい。

6. 今回の視察研修で今後にかしていきたい事柄を箇条書きにした。

- ・ 既存施設の有効利用
宮津市は商業施設の3階に図書館を4階に子育て支援センターを設置した。既存の施設の有効利用がこれから強く求められる。
- ・ 行政の部局を現場に設置する。
宮津市は福祉・教育の部局を商業施設の4階に設置した。以前視察した海士町はフェリー乗り場に観光課を設置している。問題点の共有や施策のスピードアップに繋がると確信する。
- ・ 施策に対するPDCAの徹底
京丹後市の交通施策は多岐にわたり、素晴らしい成果を収めている。反面もっと整理できるのではと考える。そのためには常にPDCAサイクルを活用し、事業を進める必要がある。惰性で続けることは罪悪である。自分のお金でないことを忘れないで欲しい。
- ・ 民間の活用
「ささえ合いタクシー」のような民間活動がますます求められる時代になった。多くの規制が存在するなか、国交省に運行サービスを認めさせた努力に敬服する。本町にも人材は沢山いる。現状を知らせて、窮地を救うために力を貸して欲しいと働きかけるべきだ。

最後に

時代の変化をどのように乗り越えるのか。先進地にはいろいろな取り組み例を見ることが出来る。この町でも課題は多いが、大きな壁が改革を阻んでいるように見える。先進地の事例を参考にして、視点を変えて果敢に壁を取り壊したいものである。